

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-310527

(43)公開日 平成5年(1993)11月22日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00	K 9165-4C		
	7/06	8615-4C		
	7/075	8615-4C		
	7/08	8615-4C		
	7/48	9051-4C		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 6 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号	特願平4-146277	(71)出願人	000249908 有限会社野々川商事 愛知県名古屋市中区丸の内3丁目5番24号
(22)出願日	平成4年(1992)5月13日	(72)発明者	小河 拓也 岐阜県大垣市浅草町4-66 日本メナード 化粧品株式会社生化学研究所
		(72)発明者	大隅 和寿 岐阜県大垣市浅草町4-66 日本メナード 化粧品株式会社生化学研究所
		(72)発明者	伊藤 三明 岐阜県大垣市浅草町4-66 日本メナード 化粧品株式会社生化学研究所

(54)【発明の名称】 化粧品

(57)【要約】

【目的】べとつかず使用感に優れた化粧料を提供する。

【構成】本発明は月下美人の抽出物を含有することを特徴とする化粧料である。本発明の月下美人の抽出物とはサボテン科月下美人の溶媒抽出物であり、例えば、全草や花の乾燥品を精製水、エタノール、1,3-ブチレングリコール、プロピレングリコールなどの単独あるいは混合溶媒で常法により抽出することができる。本発明の化粧料としては基礎化粧料、メイクアップ化粧料、浴用剤、頭髮化粧料などが挙げられる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 月下美人の抽出物を含有することを特徴とする化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、月下美人の抽出物を含有することを特徴とする化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、化粧品には増粘剤としてアラビアゴム、トラガントゴム、ペクチンなどが用いられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】化粧品において増粘剤は非常に良く用いられ化粧品の製造には欠くことができない原料である。しかし、従来の増粘剤は使用感として、べたつきがある、pHによる粘度の変化、経時的な粘度変化などの問題があり、特に使用感の優れた増粘剤は必要とされている。そこで、月下美人の抽出物について化粧料への応用を検討したところ、優れた増粘作用および保湿作用を示し、かつ、月下美人の抽出物を含有することを特徴とする化粧料がべとつかず使用感に優れ、また、髪をしなやかにする効果も有し、さらに、経時的に安定していることから本発明を完成した。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、月下美人の抽出物を含有することを特徴とする化粧料である。本発明でいう月下美人とは、サボテン科クジャサボテンの原種 (*Epiphyllum oxypetalum* Haw.) およびその近縁種であり、その園芸品種の全草や花の乾燥品などを利用することができる。

【0005】月下美人の抽出物は、例えば、月下美人の乾燥品に水、エタノール、1,3-ブチレングリコール、プロピレングリコールなどの水溶性の溶媒を単独あるいは混合して加え、室温であるいは加熱して常法により抽出することができる。月下美人の抽出物は以後の操作を容易にするために、必要に応じて濃縮あるいは濃縮乾固することができる。また、抽出物をさらに活性炭、活性白土などを用いてさらに精製した物を用いてもよい。

【0006】月下美人の抽出物は、乾固物として本発明*

*化粧料の全量中、0.0001~10重量%、好ましくは、0.01~5.0重量%配合することができる。0.0001%以下の濃度では十分な効果が得られず、10重量%以上の濃度では効果の増強が認められず不経済である。本発明の化粧料には月下美人の抽出物の効果を損なわない範囲内で、化粧料などに使用される油脂類、ロウ類、炭化水素類、脂肪酸類、アルコール類、エステル類、界面活性剤などの原料を配合することができる。本発明の化粧料は、クリーム、ローション、乳液、パックなどの基礎化粧料、ファンデーション、リップスティックなどのメイクアップ化粧料、シャンプー、リンスなどの頭髮化粧料、浴用剤、石鹸などの剤型を採用することができる。

【0007】

【実施例】次に本発明を詳細に説明するため実施例を挙げるが、本発明はこれに限定されるものではない。尚、実施例に示す配合量の部とは重量部を示す。

実施例-1 月下美人の抽出物

月下美人(全草の乾燥品)100gに精製水を1L加え、10℃で2時間加熱し冷却後濾過した。残渣にさらに水を1L加え、同様にして加熱抽出した。濾液を合わせ減圧濃縮した後、凍結乾燥することにより月下美人の水抽出物30g(収率30%)を得た。

【0008】実施例-2 月下美人の抽出物

月下美人(花の乾燥品)100gに30%エタノール水溶液を1L加え、室温で2晩抽出した。吸引濾過した後、その濾液を減圧濃縮し、次いで、凍結乾燥することにより月下美人のエタノール抽出物15g(収率15%)を得た。

【0009】実施例-3 月下美人の抽出物

月下美人(全草の乾燥品)100gに50%1,3-ブチレングリコール(1,3-BG)水溶液を1L加え、室温で1週間抽出した。吸引濾過で残渣を取り除き、月下美人の1,3-BG抽出物を得た。

【0010】実施例-4 月下美人の抽出物

月下美人(花の乾燥品)100gに30%1,3-ブチレングリコール(1,3-BG)水溶液を1L加え、室温で1週間抽出した。吸引濾過で残渣を取り除き、月下美人の1,3-BG抽出物を得た。

【0011】

実施例-5 化粧水

処方	配合量
1. エタノール	5.0部
2. P-オキシ安息香酸メチル	0.1
3. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	0.1
4. 香料	適量
5. 精製水	10.0
6. 月下美人の抽出物(実施例-1)	5.0
7. 1,3-ブチレングリコール	3.0
8. グリセリン	2.0
9. キサンタンガム	0.02

10. 精製水

74.5

製造方法：成分1～5および成分6～10をそれぞれ均一に溶解し、混合し濾過して製品とする。

*実施例-5において、月下美人の抽出物を精製水に置き換えたものを従来の化粧水とした。

【0012】比較例-1 従来の化粧水

* 【0013】

実施例-6 クリーム

処方

配合量

1. 流動パラフィン	6.5部
2. ワセリン	10.0
3. ステアリン酸	4.0
4. セチルアルコール	3.0
5. ステアリルアルコール	1.0
6. ポリオキシエチレン(25)モノステアレート	3.0
7. ソルビタンモノステアレート	2.5
8. 1,3-ブチレングリコール	5.0
9. 水酸化カリウム	0.1
10. 月下美人の抽出物(実施例-2)	0.2
11. P-オキシ安息香酸メチル	0.2
12. 精製水	64.5
13. 香料	適量

製造方法：油相成分1～7および水相成分8～12をそれぞれ20※し、30℃まで冷却して製品とする。

れ70～75℃に加熱溶解した後、油相成分1～7に水相成分 【0014】

8～12を加えて乳化し、冷却途上で成分13を加えて混合 ※

実施例-7 乳液

処方

配合量

1. 流動パラフィン	8.0部
2. スクワラン	2.0
3. ステアリルアルコール	2.0
4. ソルビタンモノオレート	2.5
5. グリセリンモノステアレート	2.3
6. ポリオキシエチレン(10)ソルビタンモノオレート	0.8
7. グリセリン	6.0
8. 月下美人の抽出物(実施例-3)	0.5
9. P-オキシ安息香酸メチル	0.2
10. 精製水	77.0
11. 香料	適量

製造方法：油相成分1～6および水相成分7～10をそれぞれ70～75℃に加熱溶解した後、油相成分1～6に水相成分7～10を加えて乳化し、冷却途上で成分11を加えて混合し、30℃まで冷却して製品とする。

★【0015】比較例-2 従来の乳液

実施例-7において、月下美人の抽出物を精製水に置き換えたものを従来の乳液とした。

★ 【0016】

実施例-8 パック

処方

配合量

1. ポリビニルアルコール	12.0部
2. エチルアルコール	5.0
3. 1,3-ブチレングリコール	8.0
4. P-オキシ安息香酸メチル	0.2
5. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	0.5
6. 月下美人の抽出物(実施例-2)	1.0
7. クエン酸	0.1
8. クエン酸ナトリウム	0.3
9. 香料	0.1

10. 精製水

73.8

製造方法：各成分を均一に溶解し製品とする。 * * 【0017】

実施例-9 ファンデーション

処方

配合量

1. ステアリン酸	2.4部
2. ポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノステアレート	1.0
3. ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル	2.0
4. セチルアルコール	1.0
5. 液状ラノリン	2.0
6. 流動パラフィン	3.0
7. ミリスチン酸イソプロピル	6.5
8. P-オキシ安息香酸ブチル	0.1
9. 精製水	58.2
10. 月下美人の抽出物(実施例-3)	0.5
11. カルボキシメチルセルロースナトリウム	0.1
12. ベントナイト	0.5
13. プロピレングリコール	4.0
14. トリエタノールアミン	1.1
15. P-オキシ安息香酸メチル	0.2
16. 酸化チタン	8.0
17. タルク	4.0
18. 着色顔料	5.0
19. 香料	適量

製造方法：成分10～13および15を70℃に加熱しよく撹潤させる。これに成分9および14を溶解し水相とする。成分1～8を加熱溶解し、80℃に保ち油相とする。よく混合し粉碎機に通し粉碎した成分16～18を水相に加え、ホモ※

※ミキサーで撹拌し75℃に保つ。この水相に油相をかきまぜながら加え、冷却し、45℃で成分19を加え、撹拌しながら冷却し製品とする。

【0018】

実施例-10 浴剤

処方

配合量

1. 硫酸ナトリウム	43.0部
2. 炭酸水素ナトリウム	50.0
3. 月下美人の抽出物(実施例-1)	5.0
4. 黄色202号の(1)	適量
5. 香料	適量

製造方法：各成分をよく混合し製品とする。 ★ ★ 【0019】

実施例-11 シャンプー

処方

配合量

1. アルキゾ硫酸トリエタノールアミン	18.0部
2. ラウリン酸ジエタノールアミド	3.0
3. 月下美人の抽出物(実施例-4)	0.1
4. メチルセルロース	0.5
5. 精製水	77.0
6. 香料	適量

製造方法：成分4に成分5を均一に融解した後、成分1および3を加え、70～75℃で加熱溶解した後、成分2を加え、冷却途上に成分6を加え30℃まで冷却し製品とする ☆

☆る。

【0020】

実施例-12 リンス

処方

配合量

1. ホホバ油	0.01部
2. ベヘニルアルコール	3.0

7	8
3.塩化ジステアリルジメチルアンモニウム(75%)	8.0
4.1,3-ブチレングリコール	5.0
5.月下美人の抽出物(実施例-4)	0.01
6.クエン酸	0.05
7.香料	適量
8.精製水を加えて100とする。	

製造方法：成分1～8を60℃で溶解し、攪拌して30℃まで冷却し製品とする。

【0021】

【発明の効果】本発明の月下美人の抽出物は優れた保湿性および増粘作用を有し、また、月下美人の抽出物を配合した化粧料は、べとつかず優れた整肌作用を示し、さらに髪をしなやかにする効果を有していた。次に、本発明の効果を詳細に説明するため、実験例を挙げる。

【0022】実験例-1 整肌作用

表1 本発明による化粧水の整肌作用

評価	本発明の化粧水(実施例-5)		
	非常によい	良い	普通
肌のさっぱり感	21	7	2
肌のしっとり感	20	8	2
肌のなめらかさ	21	6	3
肌がべとつかない	25	5	0

【0024】

※ ※【表2】

表2 従来の化粧水の整肌作用

評価	従来の化粧水(比較例-1)		
	非常によい	良い	普通
肌のさっぱり感	1	9	20
肌のしっとり感	2	10	18
肌のなめらかさ	0	8	22
肌がべとつかない	4	6	20

【0025】

★ ★【表3】

表3 本発明による乳液の整肌作用

評価	本発明の乳液(実施例-7)		
	非常によい	良い	普通
肌のさっぱり感	22	6	2
肌のしっとり感	20	7	3
肌のなめらかさ	21	7	2
肌がべとつかない	23	5	2

*実施例-5の化粧水、実施例-7の乳液、比較例-1の従来の化粧水および比較例-2の従来の乳液を用いて、女性30人(30～45才)を対象に1ヶ月間の使用試験を行った。使用後、アンケート調査により整肌効果を判定した。その結果、月下美人の抽出物を含有することを特徴とする化粧料は優れた整肌作用を示した(表1、表2、表3、表4)。

【0023】

* 【表1】

以下余白

*【表4】

【0026】

*

表4 従来の乳液の整肌作用

評価	従来の乳液(比較例-2)		
	非常によい	良い	普通
肌のさっぱり感	1	10	19
肌のしっとり感	3	10	17
肌のなめらかさ	1	8	21
肌がべとつかない	4	7	19

【0027】実施例-6のクリーム、実施例-8のパック、実施例-9のファンデーションおよび実施例-10の浴用剤についても同様に使用試験を行ったところ、優れた整肌効果を示した。また、実施例-11のシャンプーおよび実施例-12のリンスについても同様にして頭髮に対する使用試験を行ったところ、髪や地肌がべとつ※

※かず、髪のしなやかさやスタイリングも良好であった。以上示したように、本発明の月下美人の抽出物を配合した化粧料は、べとつかず使用感がよく、優れた整肌作用および髪をしなやかにする効果を示した。また、さらに、月下美人の抽出物の増粘作用および保湿作用は、pHによる変化が少なく、また、経時的にも安定していた。

フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁵

A61K 7/50

識別記号

庁内整理番号

9051-4C

F I

技術表示箇所